

## ■ 平成26年8月4日 経済労働委員会県内調査

### 1 JAならけん椿井営農経済センター（生駒郡平群町椿井）

【調査目的】リーディング品目である小菊の生産について

【調査概要】当地域における小菊の生産状況等について説明を受け、施設見学・質疑応答を実施

#### <説明の概要>

- 平群町では都市近郊農業として平坦部ではトマト、イチゴ等の果菜類、信貴・生駒山側では小菊、バラ等の花き類やブドウの栽培が盛んである。
- 信貴・生駒山側の山沿いの県営農地開発事業で整備した農地において、標高差を利用し、小菊を集団的に栽培。
- 関西市場における小菊の割合について、6～11月は当地域のものが45～60%を占めており、夏秋期においては日本一となっている。年間の出荷量は、沖縄県が一番多い。
- JAならけんが事務局をしている西和花卉部会には142戸の会員がおり、キク農家は132戸。バラ農家も部会に所属している。
- この地域における、年間の売り上げは約14億円。
- 農業研究開発センターが開発した低コスト省力ネットハウス、電照栽培技術、県育成品種（春日の紅）を活用し、計画的な生産を実施。
- 今後の課題として、市場への出荷情報の早期提供、防除、収穫等の作業の省力化が必要と考えている。

#### 【質疑応答】

Q：飛躍的に小菊の生産が伸びたきっかけは？

A：県営農地開発事業が実施されたことによる集約的な栽培や施肥の機械化より、かなりの量が栽培できるようになったと考える。  
輪菊であれば、一本を仕立てるのにかなりの作業がかかるが、安定的な需要にこたえられる小菊に転換されたことも生産量が伸びたことの一因。

Q：年間の売り上げは14億円ということであるが、農家の収入はどのくらいか？

A：1反あたりの収穫が50,000本、1本あたりの単価が30～35円であることから、1反あたりの売り上げは約150万円である。  
栽培面積から考えると、小菊生産農家は1,000万円以上の売り上げがあると思われる。最近では肥料代や燃料費が上がっているが、露地栽培が中心なので、ハウス栽培に比べると所得率は高い。

Q：専業でされている農家が多いと思うが、後継者はどのような状況か？

A：西和花卉部会の中に20名程度が所属している青年部があり、他の品目よりも後継者がおられる状況。



## 2 奈良県営競輪場（奈良市秋篠町）

【調査目的】 奈良県営競輪場の今後のあり方について

【調査概要】 競輪場の運営状況等の説明を受け、施設見学・質疑応答を実施

### <説明の概要>

- 年間の開催日数（本場開催・奈良県主催）は年間52日で、開設記念競輪が1節4日、F1競輪が6節18日、F2競輪が10節30日となっている。  
また、他の競輪場で開催されている競輪の場外発売を年間約300日実施している。
- 昭和25年の開設以来、一般会計への操出金は合計で約318億円。  
※ピーク時→平成3年度の22億円
- 平成26年7月1日現在、全国で2,606名の選手登録があり、日本競輪選手会奈良県支部所属は27名。
- 競輪のバンク（競争路）は周長が500m、400m、333mの3種類があり、奈良県営競輪場は、333mのバンクとなっている。
- 平成26年4月1日より包括外部委託を実施。  
委託期間：平成26年4月～平成29年3月の3年間  
委託内容：車券発売業務、広報関係、ファンサービス、警備・清掃・庁舎管理
- 競輪の売り上げが下げ止まったものの、競輪ファンは高齢化及び固定化しており、競輪施行者としては厳しい状況。開催経費の削減、包括外部委託の導入により経営改善を実施し、民間のノウハウも取り入れながら施行していきたいと考えている。
- 車券の売り上げを増大させるための工夫として、全国的にはナイトー競輪、モーニング競輪などが実施され、奈良県営競輪場においてもガールズ競輪を実施している。

### 【質疑応答】

Q：包括外部委託を導入してから、変化した点は？

A：入場門の改修（色の塗り替えをして明るく）等により、ファンが来場しやすいよう環境の整備を実施している。

Q：平成17年度と平成20年度に車券の売り上げが大きく伸びているのはなぜか？

A：平成17年度（平成18年2月）は奈良競輪ではじめて特別競輪である西王座戦を開催したことによるもの。4日間で140億円の車券が売れた。

平成20年度には、特別競輪に近い大きい大会として2日制の全日本プロ選手権自転車競技大会を実施した。

平成22年度も車券の売り上げが大きいですが、このときは特別競輪である共同通信社杯を実施したことによるものである。

